

平成 28 年度第 2 回門真市めざせ世界へはばたけ事業推進委員会会議録

会議名称	平成 28 年度第 2 回門真市めざせ世界へはばたけ事業推進委員会
開催日時	平成 29 年 1 月 26 日（木）午後 3 時 00 分～ 4 時 00 分
開催場所	門真市役所本館 4 階 第 10 会議室
出席者	（委員長）柴田委員長 （副委員長）松宮副委員長 （委員）原委員、三村委員、牧菌委員 【出席人数 5 人／全 7 人中】 （事務局）岡生涯学習部次長、清水生涯学習課長補佐、酒井学校教育課副参事、松本生涯学習課係員、谷口生涯学習課係員
議題 （内容）	第 5 回門真市中学生海外派遣研修報告及び事業の振り返りについて 第 6 回門真市中学生英語プレゼンテーションコンテストについて
傍聴者数	－（門真市情報公開条例第 6 条第 5 号に定める不開示情報に該当するため、非公開）
担当部署	（担当課名）生涯学習部 生涯学習課 （電 話）06-6902-7139（直通）

<事務局>

それでは、ただいまから平成 28 年度第 2 回門真市めざせ世界へはばたけ事業推進委員会を開催いたします。

本日、満永委員と西村委員は欠席しておりますので、ご報告いたします。

よって、委員 7 名中 5 名が出席していただいておりますので、本委員会が成立していることをご報告いたします。

つぎに、お配りの資料の確認をさせていただきます。

最初に、第 2 回推進委員会議事次第です。

1 ページ、資料 1、門真市めざせ世界へはばたけ事業推進委員会委員名簿です。

2 ページ～ 4 ページ、資料 2、門真市附属機関に関する条例の施行に関する門真市教育委員会規則です。

5 ページ、資料 3、門真市中学生英語プレゼンテーションコンテスト応募者数です。

6 ページ～ 8 ページ、資料 4-1、第 5 回コンテスト来場者対象に実施しましたアンケート結果です。

9 ページ～ 11 ページ、資料 4-2、海外派遣研修 OB・OG 対象に実施しましたアンケート結果です。

12 ページ～ 14 ページ、資料 4-3、一次審査通過者対象に実施しましたアン

ケート結果です。

15 ページ、資料 5、めざせ世界へはばたけ事業改善点です。

16 ページ、資料 6-1、第 6 回コンテスト来場者対象のアンケート(案)です。

17 ページ、資料 6-2、第 6 回コンテスト発表者対象のアンケート(案)です。

18 ページ、資料 6-3、第 6 回コンテスト発表者保護者対象のアンケート(案)です。

19 ページ、資料 6-4、第 6 回コンテスト英語教員対象のアンケート(案)です。

20 ページ、資料 7、第 6 回プレゼンテーションコンテスト予定プログラムです。

最後に、ピンク色の表紙の第 5 回門真市中学生海外派遣研修報告書です。

もう一つ、A 3 の資料あると思うんですが、そちらは広報かどま 2 月号となっております。

お手元がないものがございましたら、ご連絡いただきますようお願いいたします。よろしいでしょうか。特に無いようでしたら、これからの進行を柴田委員長にお願いいたします。柴田委員長よろしくお願いいいたします。

2. 案件 1. 第 5 回門真市中学生海外派遣研修報告及び事業の振り返りについて

<柴田委員長> はい。先生方お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。よろしくお願いたします。それでは、案件 1 ということで、第 5 回門真市中学生海外派遣研修報告及び事業の振り返りについて、事務局から説明をお願いします。

<事務局> それでは、ご説明申し上げます。まずは、ピンク色の冊子、第 5 回門真市中学生海外派遣研修報告書 8 ページ目からご覧ください。

第 5 回中学生海外派遣研修は、平成 28 年 7 月 30 日(土)から 8 月 8 日(月)までの 10 日間、第 5 回中学生英語プレゼンテーションコンテストにおいて、優秀な成績を収めた 9 名と引率職員 2 名、添乗員 1 名が同行して、オーストラリア、アデレード市で行いました。研修先はこれまで同様、チャールズ・キャンベル・カレッジ校です。現地、学校生活体験プログラムを中心に、課外活動、市内見学など、短期間にたくさんの経験を盛り込んだものとなりました。

海外派遣研修後は、帰国後交流会及び同窓会を 8 月 27 日(土)に開催しました。同窓会では、海外派遣研修生の研修参加以降の意識動向・現状を確認することや OB・OG の海外派遣研修後の取組、考え方を後輩研修生が聴き、話し合うことで相互に将来の指針にすることを狙いに、プレゼンテーションコンテスト、海外派遣研修での経験が今どのように活かされているか、また、現在取り組んでいることや今後取り組んでみたいこと、門真でどんなことができるか、意見を出しあってもらい、グループごとで発表してもらいました。

次に、事業の振り返りにあたり、資料3、4、5を使ってご説明させていただきます。まず、5ページ、資料3をご覧ください。第1回から第6回のプレゼンテーションコンテストの応募者数を表しております。第6回の応募者数は、773名で、前回の747名より増加し、第1回に比べると4倍以上の応募数となっております。

次に、6ページ～8ページ、資料4-1、第5回コンテスト来場者対象に実施したアンケート結果です。(7)「コンテストは中学生の英語学習のためになっていると思いますか」との設問に対し、「とてもためになっている」が78.8%、「ためになっている」が18.8%、「あまりためになっていない」が2.4%となっており、回答者のほとんどが「ためになっている」と感じておられることがうかがえます。また、7ページ、8ページは自由意見の集約となっておりますので、またご確認ください。

次に、9ページ～11ページ、資料4-2、第1回～第5回海外派遣研修生対象に8月の同窓会時に実施したアンケート結果です。ここでは、(2)の「海外派遣研修・コンテストで学んだことが現在生かされていると思いますか」との設問に対し、「とてもそう思う」が88%、「そう思う」が12%と、回答者全員より「学んだことが現在生かされている」との回答を得ています。理由については、10ページに記載させていただいております。例えば上から7つ目の「積極性が身につきました。去年は、加入しているスポーツ少年団でドイツの学生の方々を一週間、日本で案内する機会があり、英語で積極的に話すことができました。オーストラリアで話したことが自信につながったと思います」等や、左側中断よりやや下の部分、「これがあったから今の学校を選び、自分の考えを大きく変えてくれた」等、この事業が少なからず、進路選択にも影響を与えていることが分かります。また、他にも様々な理由が挙げられていますので、ご確認ください。

次に、12ページ～14ページ、資料4-3、第6回コンテスト一次審査通過者対象に実施したアンケート結果です。ここでは、(8)の「この応募が英語学習のやる気向上のきっかけとなっていると思いますか」との設問に対し、とてもそう思うが64.2%、そう思うが35.8%と、回答者全員より「やる気向上のきっかけとなっている」との回答を得ています。

理由については、13ページに記載させていただいております。上から6つ目、「英語を使う国で自分の英語が通じるか知れ、今後の授業などで積極的に参加できるから」や右の段の上から4つ目「英語は習うだけだけど、応募してやるということがやる気向上になると思います」等、コンテストの応募をきっかけとして、モチベーションアップに繋がっていることが分かります。またこちらにも様々な理由が挙げられていますのでご確認ください。

最後、15 ページ、資料5をご覧ください。これは、今年度のめざせ世界へはばたけ事業の改善点です。5点あげさせていただいております。

1点目が、学校への新たな働きかけとして、小中学校英語教員対象に、松宮教授を講師に招き、プレゼンテーションコンテストの話も含めた英語教育の研修を実施しました。

2点目が、コンテスト応募者の英語に関する意識の変化を探るため、一次審査通過者へのアンケートを実施しております。また、今後、コンテスト発表者18名、その保護者、研修にご協力いただいております英語教員へのアンケートも実施する予定です。

3点目が、事業が5年を経過した節目として、事業効果等の周知のため、広報2月号にめざせ世界へはばたけ事業の特集記事、これまでの海外派遣研修生のメッセージ等を掲載します。こちらが資料の方に添付させていただいております広報かどま2月号になります。またご確認ください。

4点目が、海外派遣研修OB・OGにもコンテストのスタッフとして協力してもらうため、現在依頼しております。事前研修の協力のみならず、コンテストのスタッフとしても協力していただけるように現在依頼中です。

5点目が、コンテスト当日の会場内混雑緩和のため、会場整理のスタッフをホール内に配置します。

以上、第5回門真市中学生海外派遣研修報告及び事業の振り返りについて終わります。

<柴田委員長>ありがとうございました。第5回門真市中学生海外派遣研修報告及び事業の振り返りにつきまして、たくさんの項目がございましたので、どの点からでも構いません。ご意見ありましたら委員の皆さんからご意見いただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

<松宮副委員長> アンケート結果を分析しまして、面白いところは、回答した方々の、保護者、学校の関係者以外、その他の保護者、学校の関係者の回答のパターンが全く違っているということです。2点、今後改善となるようなものを提供したいと思っております。まず1点目ですけれども、生徒が意見を述べている自由意見の7ページ8ページ、特にこの10ページ11ページ、それから13ページ14ページのところの自由回答の項目を確認してみると、「英語」というのがキーワードですね。すなわち、めざせ世界へはばたけ事業とプレゼンテーションコンテストというのを、一言で表現すると「英語」になっています。これが当初、このプログラムをデザインしていく中で、英語というのは、あくまで手段ですから、発表したいメッセージであり、能動的に働きかけていくということを今やっている最中ですが、アクティブにというアクティブラーニングの走りですが、そのあたりをもう少し意識できるような取組、とい

うのが一つ鍵になるかなと思います。もちろん「英語」も分かりますが、そこからさらに門真市のオリジナルを、強さを出していくためには、英語の発音が良いとか、正しい文法、たくさん単語を知っているからというレベルから一步前に進んで、より能動的な態度の育成という方向へ、やはりそれを意識して子どもたち、中学生が、または学校の先生方が取り組めるような道筋、ガイドが必要かなと一つ感想として述べさせていただきました。

もう一つ、次の報告がありました、応募用紙の件についてです。12 ページです。12 ページのところの「応募用紙の記入はいかがでしたか」の部分、第6回、今現行で進んでいるところだと思いますけれども「難しかった」「少し難しかった」これは、日本語、英語を含めての全体の印象だと思います。年度に比べて改善をしていただいて、記入しやすくご配慮いただいたと同時に、評価する側、一次審査の書類審査で評価しやすいように改訂していただきましたが、「難しかった」「少し難しかった」をトータルすると約90%近い。やはり未だにこれが一つの課題になっているということを受けまして、二次、最終審査に向けては、マニュアルを作っていますが、この辺りを学校教育の一つの教材化して、各学校の方にも提供して、学ぶためのひとつの手段として、もっていくことはできないだろうか。それから、可能性を窺わせるのが、ちょうどページの斜め下。12 ページですね。「応募理由を教えてください」とのことですけども、ここに「宿題・課題」として出している人が6割近くいると、ということはある意味必然的に、必修としてやらされ感があるにしろ、応募してるんだと。そういう機会を各学校で提供しているのであれば、学ぶより学びを深めていく。そしてプレゼンテーションコンテストの趣旨を「英語」といったものと、同時に能動的に関わっていく態度を育成していくような教材化というような、そのあたりを委員会の方で工夫してみる事は意味があるかな、というところを参考までに委員として申し上げさせていただきました。

＜柴田委員長＞ はい。ありがとうございます。他にございませんか。アクティブラーニングのお話が出ましたが、それ以外でも、なにかありますか。

この、今年の資料5になりますけども、英語教員の研修の実施ということで小中学校英語教員を対象に講師をしていただきましたが。

＜松宮副委員長＞ はい。

＜柴田委員長＞ その時の印象というのはどういったものでしたか。

＜松宮副委員長＞ そうですね。先生方もまず事業の趣旨に立ち返りまして、パワープレゼンテーションとは何を指すのかといった趣旨をご理解いただけたかなというふうには思いました。ですから通常のスピーチコンテストとか要するに固定的にモデルがあってそれを覚えて、そしてそれを再現する、といったものではないですよという事業そのものの趣旨。それが派遣された学生がチャ

ールズ・キャンベル・カレッジ校に行ってプレゼンテーションをする。今回感動したことをお話ししましたが、校長先生を含めて、それを聞いた人達が涙を流すという、ほとんど半泣きになったと聞いております。それだけ感動を与える力を持っていたんだなど、それも含めてプレゼンテーションコンテストは「英語」という発想ではない、そういった意味で、中学校の英語の授業、小学校の英語の授業含めて改善とか、その趣旨を盛り込むことが十分にできるのかなとそういった印象です。

＜柴田委員長＞はい。ありがとうございます。原委員いかがでしょうか。

＜原委員＞私、第二次審査の面接をしましたが、さっき松宮委員長が仰ったとおりに「どうして応募されましたか」と聞かれた時に、「宿題」と答える方がたくさんいて、最初、それはどうなのかなと思っていました。でも、そういう機会があるから応募する。「英語好きですか」と聞くと、「英語は得意じゃないです」と答える生徒も結構いたので、今までずっと英語やってきたばかりの子だけではなくて、英語好きじゃないけど宿題だからやってみて、頑張っけて面接を受けに来てる子がたくさんいました。それで応募者数が増えているということなので、すごい良い機会だと思います。

＜柴田委員長＞宿題といえども、経験して良い機会きっかけ作りになるということですか。

＜原委員＞宿題で出したら通過してしまっけて、面接に来て、面接は一生懸命頑張っけてるという子がいたので、これをきっかけに面接あんまり答えれなかつたから頑張る子もいるだろうし、通過してプレゼンテーションですごく伸びる子もいると思うし、すごく良い機会だと思います。

＜三村委員＞そういう意味では人数の推移が4倍となっていますが、宿題で増えたということもあると思うんですけども、原委員がおっしゃったように、これ面白いなとか自信ついたとか、賞についても18人に残っけていなくてもそういうふうに思った人が多いと思います。

＜柴田委員長＞毎年の推移ということで資料3、5ページに載っけていますが、その前の年が150人、三中の場合、特に何年か置きにその波が来るようで、極端です。1ケタ2ケタの次に、136とか150となっています。これはコンスタントに28年度の場合は、三中だけが2ケタ。他が3ケタということで、これ全て3ケタになってきたらかなりの数になりますが、これは三中の場合は宿題として出っけていないからでしょうか。

＜事務局＞委員長仰るとおり、三中については、この第6回は宿題にされていっけていないようかっています。

＜柴田委員長＞なるほど。原委員が仰ったとおりに宿題ですけれども、きっかけづくりの宿題ということで、それをいくら楽しんでできるか、楽しんでやれる

かというところで、難しいと思いますけど、自主的、自発的に取り組めるように工夫して取り組んでいかなければならないことでしょうか。他、お気づきの点や改善すべき点等ございましたらお願いします。

では、1点。これとはあまり関係ないんですが、発表の事でよろしいですか。表彰の事です、当日18人が発表されて、残酷ですけど、結果として9人が優秀賞で海外派遣。9人は残念ですけど奨励賞。18人出て来るまでも、700人の中から選ばれた18人はすごい事ですけども、やっぱり半々に分かれますので、毎年一斉に壇上で最後表彰して、先に優秀賞があってその後に奨励賞ですけども、その時点で泣いている子とかがいて、ちょっと残酷かなと思いますので、一斉にステージに乗せないで、最優秀から順に表彰するという方法はいかがなのかなと思いますが、どのような印象をお持ちでしょうか。

＜松宮副委員長＞難しい所がありますね。全員がステージに上がって最後称えるという部分と、結果が出されるという、教育的にどちらがいいのか、一昨年から大きく変えたのが、関西国際大学のボランティアの学生が、控室の中からその子供たちを支えようという工夫をしているところはあるんですね。これは議論した方がいいと思います。ただどんなコンテストであってもスポーツの競技であっても、まずはここまで三次審査まであがってきたことを称えてあげると、その後の結果という、その流れがいいかなとは考えているんですけども。

＜柴田委員長＞はい。

＜松宮副委員長＞確かに表情を見ていると明暗がはっきりします。他の方々はどうでしょうか。

＜三村委員＞確かに印象的だったのが、舞台袖で泣き崩れる子とか見ていると、一般的なコンテストという意味では、松宮副委員長が仰られたとおり、最後まで残ったということが素晴らしくて、称えられるべきだと思いますが、中学三年生という歳と、それに英語という学習に関わる部分が評価されるという部分がどういう印象を受けるかということを考えなければならぬと思います。

＜柴田委員長＞牧菌委員どうでしょう。

＜牧菌委員＞もし、その辺を配慮するのであれば表彰のやり方として、例えば舞台袖から出て来るという形で、最優秀賞、優秀賞、奨励賞の受賞を舞台で行い、舞台袖に戻るといった工夫が必要なのかなと思います。

＜柴田委員長＞日にちもありますので、学校教育課と相談して、どのような方法があるのか考えていただけたらと思います。

＜事務局＞はい。

＜松宮副委員長＞とても大事なことだと思いますね。ステージをイメージして、下から見たものがどうなるか、上から見たものはどうなるか。最初に全員18名がステージに上がって、全員にまず優秀賞が手渡される。その後、一回下がっ

てから結果が発表される。そういう流れがあってもいいのかなと思います。そのあたりは事務局の方で工夫を考えていただければと思います。

<柴田委員長>では、他のお気づきの点がございましたら、後程ご質問いただくということで、次の案件にいきたいと思います。第6回門真市中学生英語プレゼンテーションコンテストについて、事務局より説明をお願いします。

2. 案件2. 第6回門真市中学生英語プレゼンテーションコンテストについて

<事務局> 第6回門真市中学生英語プレゼンテーションコンテストの進捗状況についてご説明いたします。

昨年7月はじめから9月末まで受け付けましたコンテスト応募者数は、先ほどご説明させていただいたとおり、773名となり、一次審査通過者は、60名とし、また二次審査前には一次審査通過者を対象に事前研修を実施しました。二次審査には56名が参加し、18名の本選通過者を決定いたしました。今年も辞退者は無く、コンテストには18名が出場いたします。

事前研修は、関西外国語大学生、市内中学校の英語教員、海外派遣研修OB・OGのご協力のもと、発表者にまずは「プレゼンテーションとは何か」を学んでもらい、英語でのプレゼンテーションの完成を目指して、今年も4回実施いたします。これまでに、1月21日(土)に実施しました。この後、1月28日(土)、2月4日(土)、2月25日(土)に実施し、26日の本番に臨みます。

20ページ、資料7をご覧ください。コンテストは、2月26日(日)13時より門真市民文化会館ルミエールホール小ホールにて開催いたします。

審査委員長は、松宮副委員長にお願いし、西村委員には質問者をお願いいたします。もう1名の質問者は、関西外国語大学のT.オーティン講師にお願いする予定です。

また、今年のコンテストもスカイプ交流を行う予定です。海外派遣研修の派遣先である、チャールズ・キャンベル・カレッジ校とインターネット回線を通じて見ていただきます。

具体的には、開会式終了後コンテストが始まる前に、舞台奥のスクリーンにチャールズ・キャンベル・カレッジ校バルダ副校長を映し出し、松宮副委員長と現地オーストラリアと会話をさせていただきます。

このほか、昨年同様、発表者の問いかけに会場が応えられる雰囲気を作るために、大学生にご協力いただき、コンテスト開始前に前説として、挨拶・応答の練習を取り入れます。

また、審査集計時間の間には、第5回海外派遣研修生4名に海外派遣研修の報告と門真子ども英会話講座「KEIK」の子どもたちに英語の歌の発表をお願いします。

先輩海外派遣研修生による発表については、当日発表可能なメンバーを現在

探しており、まだ見つかっていない状態です。そのため、このプログラムについて、現段階では未定とさせていただき、発表者がいなければこのプログラムは省く形を検討しております。

審査方法は、昨年と同様にしておりますが、質問は、2人の質問者が交互に1問ずつお願いいたします。また、表彰の発表順については、生徒への配慮から学校順とさせていただく予定です。

当日、会場来場者に配るパンフレットは、少しでも発表内容を理解できるように、キーワード（英語、カタカナ、日本語訳）と評価基準を載せます。この評価基準の説明については、司会から説明を付け加えます。また、コンテストの経緯を表にし、舞台に立つすべての発表者がよりすぐられた18名であることを表現するようにしております。

今回もより良いコンテストにすることを目的に来場者に対してアンケートを実施いたします。

つぎに16ページ、資料6-1をご覧ください。こちらが、コンテスト来場者に配布するアンケートの案です。

また、今回は、発表者18名及びその保護者また、ご協力いただいている英語教員に対してもアンケートを実施する予定です。

17ページ、資料6-2をご覧ください。こちらが、発表者18名に対してのアンケートの案です。コンテスト当日の審査時間中に配付し、記入してもらう予定です。

次に、18ページ、資料6-3をご覧ください。こちらが、発表者18名の保護者に対してのアンケートです。3回目の事前研修時に配付し、4回目の事前研修時に提出してもらう予定としております。

最後に、19ページ、資料6-4をご覧ください。こちらが、英語教員に対してのアンケートの案です。こちら事前研修時に配付する予定です。

以上で説明を終わります。

<柴田委員長> 当日のスケジュールとアンケートの案について説明がありましたが、何かご意見などはありませんでしょうか。ないようでしたら、今年のスカイプ交流ならびにコンテストについて松宮副委員長からご意見、ご説明をいただいでよろしいでしょうか。

<松宮副委員長> 先ほどご説明ありましたように、チャールズ・キャンベル・カレッジ校のバルダ副校長先生に依頼しておる状況です。今向こうは夏休みの最中で、まだ返信はありません。コンテストは、日曜日ということもありますので、短い時間にはなると思いますが、メッセージをいただきまして、会場の雰囲気盛り上げていきたいと考えております。もし、ご都合がつかない場合は、ビデオメッセージということで、ライブにはならないですが、録画さ

れたものを流すという方向で調整させていただきたいと考えております。たぶん、スケジュールどおりいけば、ライブでメッセージをいただくということになると思います。よろしく願いいたします。

＜柴田委員長＞ ありがとうございます。この中で、先輩海外派遣研修生というのは、第4回までの研修生ですか。

＜事務局＞ はい。

＜柴田委員長＞ この間は審査が行われているんですが、わずか5分と言えど貴重な5分です。問題なく審査が進めばいいんですが、この間が無い場合の代替案は考えておりますか。

＜事務局＞ 先ほど、担当者からも話がありましたが、OB・OGの中できちんとお話しできる方を探しているんですが、まだ今決まっていません。それ以外については今提案がありましたが、松宮副委員長からヒントがありました。録画メッセージを副校長からいただくのであれば、これから事前研修を第2回、第3回、第4回と行います。その時にOB・OGの方に来ていただいているので、その時に応援メッセージをもらうのもいいかな、ということをおもいました。そのあたりについては、事務局会議にて検討していきたいと思っております。

＜柴田委員長＞ はい。よろしく願いいたします。その他、今までの部分を含めまして何かお気づきの部分がありましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。では、皆さまからいただいたご意見を考慮して、事務局は、コンテストに臨むようにお願いいたします。

＜事務局＞ ありがとうございます。いただきましたご意見を考慮してコンテストを進めてまいります。

＜柴田委員長＞ 以上で本日の案件は終了しました。事務局から連絡することはございますか。

＜事務局説明＞ それでは、4点ご連絡いたします。

まず、1点目が、めざせ世界へはばたけ事業の平成28年度事業評価についてです。コンテスト終了後、松宮副委員長、西村委員、原委員には事業評価シートをお送りいたしますので、平成28年度の事業評価をお願いします。

次に2点目が、海外派遣研修の決定についてです。3月24日の第1回門真市議会定例会の議決をもって確定となります。確定後は、海外派遣研修候補生に連絡し、参加意思の確認をいたします。その後、平成29年度4月下旬に保護者説明会を実施し、海外派遣研修のための事前研修を実施していく予定です。

つぎに3点目が、第7回コンテストの日程についてです。平成30年2月25日（日）に開催する予定としております。

最後に、4点目が、平成29年度の第1回門真市めざせ世界へはばたけ推進委員会は、5月か6月ごろに実施したいと考えております。来年度の推進委員会

の実施日は、改めて、委員の皆さまと調整させていただきますので、ご協力のほど宜しくお願い致します。

詳しい内容につきましては、改めてご連絡いたします。以上です。

<柴田委員長> ありがとうございます。今の説明で何かご質問はございませんか。

<柴田委員長> それでは、平成28年度第2回門真市めざせ世界へはばたけ事業推進委員会を終わらせて頂きます。本日はお忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。